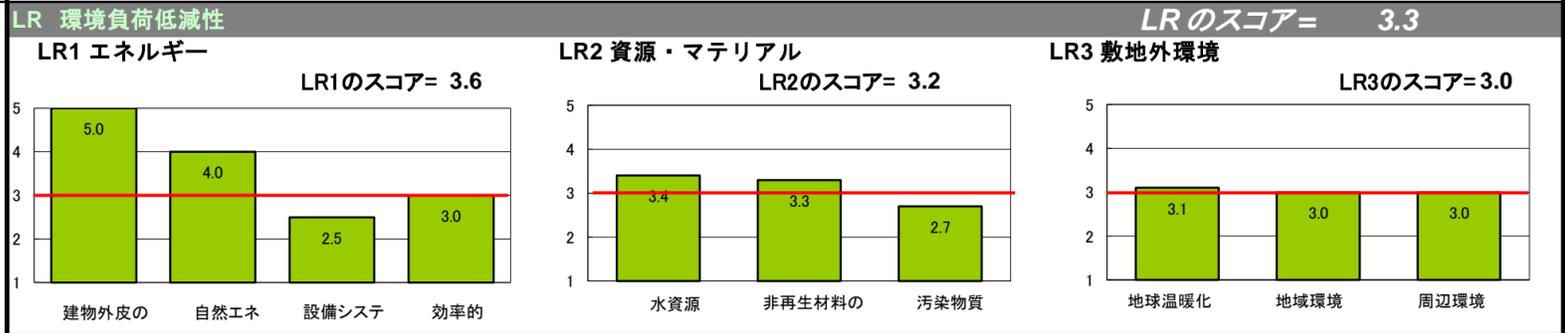
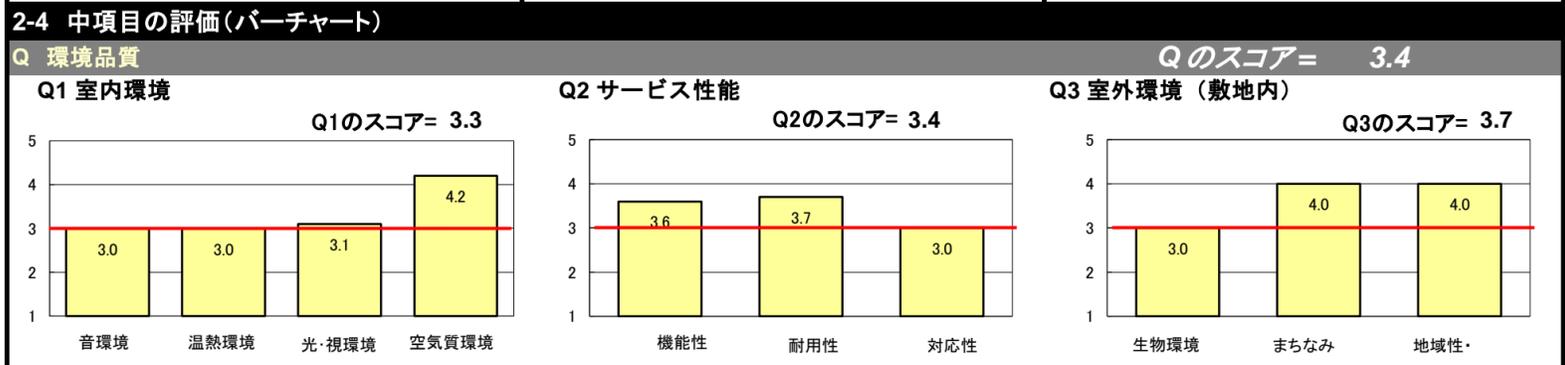
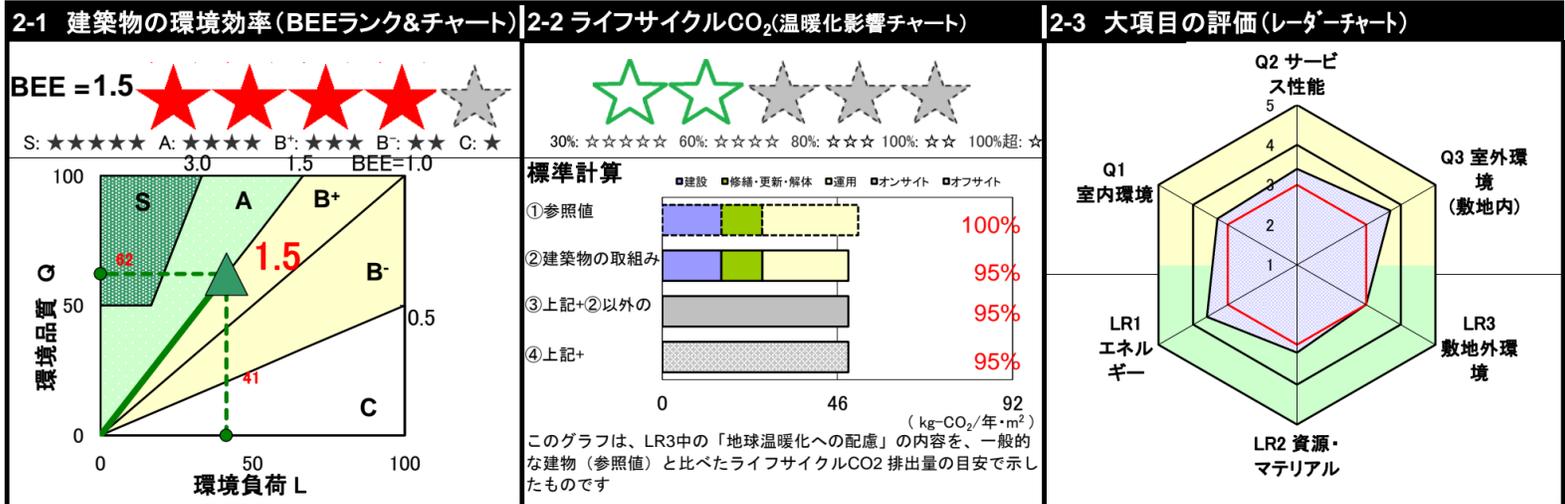


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小坂井地域交流会館(仮称)	階数	地上2階
建設地	愛知県豊川市小坂井町大堀10の一部	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域・22条	平均居住人員	100人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,780時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2021年7月14日
敷地面積	6,925 m ²	作成者	磯谷直昭
建築面積	2,202 m ²	確認日	2021年7月14日
延床面積	3,102 m ²	確認者	伊藤恭行



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 24px;">27.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 24px;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>フローリング材(県産材)</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部		建物全体・共用部		住居・宿泊部		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数			
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	-	-	-	-	-	3.0	
1.2 遮音		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		-	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境											
2.1 室温制御		0.3	3.0	0.35	-	-	-	-	-	3.0	
1 室温		0.5	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境											
3.1 昼光利用		0.2	3.1	0.25	-	-	-	-	-	3.1	
1 昼光率		0.3	3.4	0.30	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口		3.0	3.0	0.60	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	4.0	0.40	-	-	-	-	-	-	
建物中央にハイサイドライトを計画		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御		5.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
4 空気質環境											
4.1 発生源対策		0.2	4.2	0.25	-	-	-	-	-	4.2	
1 化学汚染物質		0.5	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
F☆☆☆☆の材料を全面的に使用		3.0	5.0	1.00	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
敷地内は全面禁煙とする		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.6	0.40	-	-	-	-	-	3.4	
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	3.6	
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		0.3	5.0	0.30	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)		3.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	5.0	1.00	-	-	-	-	-	-	
天井面に吸音面を計画。地場産木材を活用したフローリングを使		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
耐久性の高い外装材を用いることで長く美観を保つ計画。 各階トイレに掃除用流し(SK)を設置		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.7	0.31	-	-	-	-	-	3.7	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	4.6	0.48	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	5.0	0.80	-	-	-	-	-	-	
3 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		0.1	3.0	0.19	-	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり			0.3	3.0	0.31	-	-	-	3.0
1	階高のゆとり	1階の階高は4.95Mで計画	-	5.0	-	-	-	-	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	1.00	-	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	-
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	-
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	周辺の町並みとの調和を意識した外観計画。		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			地域の祭 住民の交流 等に配慮		0.3	4.0	0.30	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	催事に活用可能な半屋外空間を計画した賑わいの拠点づくり。		-	5.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			ペアガラスを採用し、開口部の断熱性能を高める計画。		3.0	5.0	0.30	-	5.0
2 自然エネルギー利用			ハイサイドライトを計画。		3.0	4.0	0.20	-	4.0
3 設備システムの高効率化			3.0	2.5	0.30	-	-	-	2.5
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		節水型の衛生機器を採用		3.0	3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.6	0.60	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		雨水の灌水利用。		3.0	4.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.3	0.63	-	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		-	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.24	-	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	②	-		3.0	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	独自	木毛セメント板_天井、ソーラトン_天井、ビニル系床材_内装床		3.0	3.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	3.0	3.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	2.7	0.22	-	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	2.6	0.68	-	-	-	-
1	消火剤		-	2.0	0.33	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.33	-	-	-	-
3	冷媒		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	敷地内には、駐車場、駐輪場を十分に計画。		-	3.1	0.33	-	3.1
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	-	-	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.67	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.3	3.2	0.33	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	-
3	交通負荷抑制	独自	コミュニティバスの停留所を設置し、公共交通の利用を促す計		-	4.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	-
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	-
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

小坂井地域交流会館(仮称)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:27.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				2.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	フローリング材(県産材)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 小坂井地域交流会館(仮称)

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の外装には、耐久性の高い材料を用いることで維持管理が行いやすく、長期にわたり美観を損なわない建物を計画した。 ・自然採光、自然通風を積極的に取り入れる計画とした。 ・地域住民の交流の拠点となるように、建物中央部にゆとりあるホール空間を設けて自然な交流が生まれる場を目指した。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・性格の異なる用途が複合される建物であるため、音環境には特に配慮した。天井面は基本的に吸音性能の高い材料を用いる計画とした。また、大きな音が発生する室の建具については、遮音性能のある建具を使用する計画とし、異なる用途が共存するための室内環境を整える計画とした。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな地震にも耐えうる建物とするため、耐震性能を50%割増して計算を行った。 ・各設備は、更新、メンテナンスが行いやすいよう配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな庇を計画する事で半屋外空間を創出し、地域のお祭り等のイベント時に有効活用できる計画とした。 ・透水性能のある舗装材を採用する事で、雨水流出のリスクを軽減させるよう努めた。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・開閉可能なハイサイドライトを建物中央に配置し、有効な自然採光および自然通風が得られる計画とした。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル可能な仕上材を積極的に採用した。 ・地産の木材を積極的に活用する計画とした。 ・仕上材は、耐久性の高い材料を用いる事で長寿命化に努めた。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・建物を敷地境界から離して配置する事で、建物外周に空地を設ける事で周辺に圧迫感を与えない配置計画とした。 ・集中豪雨等による地域の浸水被害を極力低減させるため、雨水浸透貯留槽を設ける計画とした。
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>